

令和2年度・事業所による自己評価結果

事業所：ハッピーハート保育新潟西 事業：児童発達支援 回答数：9

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	自分が工夫している点 自分の課題や改善する点	課題又は改善目標
環境・体制整備	1 活動空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせ、安全性が配慮された空間となっているか。	9			・未然に防ぐ対策を行い安全な空間を作っている。	
	2 職員の配置数は適正であるか。	9				
	3 子どもや保護者への支援や対応に困った時、相談できる体制が整っているか。	9				
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、職員は参画しているか。	9			・参加できない場合もノートの回覧など、話し合いの内容を周知できる状況にさせていただいているので確認を怠らない。	
	5 前年度の保護者向けアンケートや、面談による保護者の意向等を把握し業務改善にいかしているか。	9				
	6 接遇（言葉使い・挨拶等）、身だしなみを意識して業務に就いているか。	9			・正しい模倣となるような言葉使い、声のトーン、挨拶などを心がけている。	
7 職員の資質の向上を行うために、組織として研修の機会を確保しているが、意欲的に参加しているか。	9			・毎月の勉強会に参加し知識を増やすことが出来ている。 ・研修後の復習にも力を入れていきたい。	今年度は感染症対策の為、全体研修ではなく各施設で勉強会を行っている。新しい職員も含め、全職員で一貫性のある支援ができるように基礎から共有し、資質向上を目指している。	
適切な支援の提供	8 面談等を適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、計画を作成していると思われるか。	9				
	9 個別支援計画を周知し、子どもと保護者のニーズや課題を理解しているか。	9				
	10 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせて計画を作成しているか。また、指導員は計画を意識し、支援や活動内容の意図を理解し支援しているか。	9				
	11 事業所全体で、子どもへの共通理解を持って支援にあたるよう努めているか。	9				
	12 活動プログラムはチームで立案を行っているか。	7	2			指導員が週案を立案し、児発管と相談しながらプログラムを決めている。
	13 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	3		・時折プログラムが固定化されているように感じることもあるため、幅広く活動できるように改善していきたい。	繰り返し行うことでできるようになり、自信につながる為、少しずつ新しい活動を取り入れたり、内容を発展させている。
	14 支援を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）を意識して行っているか。	9			・反省点、良かった指導方法、できるようになったこと、問題点などを共有し、目標設定についてその都度話し合っている。	
	15 平日、長期休暇等に応じて、活動内容を設定し、支援しているか。	5	4		・長期休暇がある子どもの利用はないが、個別プログラムを作成し、利用日数などを踏まえ、目標を定めて予定を立てながら支援している。 ・季節ならではのものなど特別感を感じられるような活動を考えていきたい。	保育園と併用しているお子さんが多い為、特に長期休暇等、意識はしていないが、季節の遊びは活動に取り入れるようにしている。
16 支援開始前には職員間で打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	9					
17 支援終了後には、職員間で話し合いをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9					
18 支援内容や状況等を正しく記録に残し、支援の検証・改善につなげているか。	7	2			毎日に反省会で、その日の支援について話し合っているが、生活記録への記入も日々行っていく。	
関係機関や保護者との連携	19 相談支援事業所のモニタリングや、支援会議等に、子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか。	9			・管理者が参加しているが、全職員が把握できるように報告や記録を怠らないように心がける。	
	20 児童発達支援センターや発達障害者支援センター（JOIN）等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	5	4			今年度は感染症の影響で外部講師の研修は受けられていない。
	21 以前まで利用していた保育所や認定こども園、幼稚園、または学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1		・利用する場所が変わってもスムーズに移行、継続的な支援ができるように担当者会議などを行い、話し合いの場を設け連携している。 ・定期的な訪問が行われており、園の職員が見学に訪れたり共通理解が出来ている。	現在通っている園との連携は、定期的な園訪問や電話等で情報共有を行ったり、日々の様子は園送迎の際にも共有させて頂いている。
	22 学校や障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9				

関係機関や保護者との連携	23	保育園や学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9			
	24	保育所や認定子ども園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか。	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、放課後児童クラブとの交流場を設けてほしいと思う。特に年長さんには就学後に行く選択肢でもあるのでいい機会になるのではないと思う。 ・戶外活動で時々あるが、子どもの特性を考えると難しい面もある。 ・利用児の特性上、交流できる機会の設定は難しく、行っていない。 	公園など戶外活動では、地域の子供と交流できるが、今年度は密集を避ける為、なかなか難しい。今後、放課後等デイサービスとの交流の機会は設けたいが、利用時間等の関係で参加できる利用児は限られてしまう。特性上、環境の変化への適応が難しい子も多い。
	25	日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
	26	支援の内容、利用者負担等について、質問があった際、誠意ある対応、丁寧な説明を行っているか。	9			
	27	個別支援計画は、支援の内容の説明を行い、保護者から同意を得ているか。	8	1		
保護者への説明責任等	28	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	7	2		
	29	子どもや保護者からの相談・申入れがあった場合、迅速かつ適切に対応しているか。	8	1		
	30	定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定等を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	1		
	31	個人情報に十分注意しているか。	9			
	32	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のために、伝わりやすいよう配慮をしているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時、子どもの様子を伝える時、ジェスチャーを加えたり、実際使っていた玩具を見せるなどしてイメージを持てるよう配慮している。 	
33	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの様子や特性などを知ってもらう機会があってもいいのではないと思う。 ・子どもの特性を考慮すると難しい。 	今のところ、行事等の開催は予定していない。散歩の際などに地域の方と挨拶を交わしたり話せる機会が増えると良い。	
非常時等の対応	34	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。また、定期的に情報を家庭と共有し周知しているか。	8	1		
	35	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。また、定期的に情報を家庭と共有し周知しているか。	8	1		
	36	緊急時対応、防犯、感染症対応のマニュアルを策定し、職員に周知しているか。	9			
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月避難訓練習慣の時に、紙芝居を読んだり実際に車に乗っての移動や避難先の場所を確認し、実際におきた時に慌てることがないように訓練している。 	
	38	虐待を防止するため、虐待チェックアンケートや、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に虐待チェックシートを記入し、振返っている。 	
39	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で個別支援計画に記載しているか。	4	5	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束の必要性は現在ないが、不必要な支援のないよう気を付けていく。 ・周囲への危険がある場合の対応は保護者に伝えていくが個別支援計画には記載していない。 	できる限り身体拘束を行わなくて良いように環境を整え、事前にできることを行いながら支援を行っていく。やむを得ない対応については保護者にも説明させて頂き対応していく。	
40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	9				

ハッピーハート保育新潟西

今年度は感染症の影響で、活動の幅が限られますが、それぞれのお子さんができるだけの力を発揮できるような活動を考えながら、成功体験を増やすことで、自信となり、楽しく過ごせるように支援させていただきます。

一人ひとりの日々の成長をご家族と共有しながら、共に喜び合えるように努めていきます。

職員の資質向上を目指し、支援を通して学びながら常に向上心を持って取り組んでいきたいと思っています。